

# セックス嫌いな若者たち

著者 北村邦夫氏にインタビュー

——この本のもとになった北村先生の調査によれば、16〜19歳の男性の36%がセックスに「関心がない」または「嫌悪している」と回答していて（10年）、18%（08年）から2年間で倍増しています。

その年代にはセックスのことばかり考えて日々悶々と過ごしていた私からすれば、にわかには信じがたいデータです。しかし最近、このデータの正しさを裏付けるような調査結果が日本性教育協会からも発表されました。性交経験率が高校生、大学生とも、そして各々の男女とも、05年から11年にかけて大幅に下がっていたのです。日本の若者のセックスレス化は、残念ながら事実のようです。

——今回の結果を発表したとき、どんな反響がありましたか？

反響は国内外からありましたが、特に海外メディアの反応がすごかったです。アメリカは3大ネットワークに加えてCNN、さらにドイツ、オランダ、ブラジル、オーストラリアなどの各国テレビ局、それにインターネットニュースなどを加えると、多数の国が取り上げていました。私は海外メディアに対して日本の若者のセックスレスを語りながら、自分がまるで「売国奴」になったかのような罪障感を感じました。だってセックスというのは、国の「繁

栄」の大事なきっかけです。「こんな戦いやすい国はありませんよ」と伝えているかげ、心が減入りそうでした。

——アメリカの若者にも同じようなデータがあると、この本に書いています。オハイオ州立大学などの調査によれ

## セックス嫌いな若者たち メディアファクトリー新書 777円

厚生労働科学研究の一環として02年から2年ごとに実施している「男女の生活と意識に関する調査」の第5回調査結果をベースに、数多くの若者インタビューも織り込みながら、「セックス嫌いな現代の日本の若者たちの生態」に迫る。この国の存亡に関わるこの問題に、大人はどう向き合えばよいのか。それが今、問われている。（2011年6月初版発行）



ば、アメリカの19歳前後の若者も「お金やセックスより、ほめられること、周りから評価されること」を最も望んでいることが明らかになったそうです。ただし、国際的な傾向とは言い難いと思います。現に私を取材に来たドイツやブラジルのテレ

ビ・クルーは、若者のセックス離れなど全く信じられないと言っていました。

——日本の若者のセックスレスは、何が原因だとお考えですか？

「性欲はある、けれどもセックスは嫌悪する」というこの不思議な現象については、さまざまな要因があると思っています。アダルトサイトが手軽に見られるようになったことや、メールに依存して人と接する機会が減ったこと、お金がなくてデートに誘えないといったこともあるでしょう。

私が若者と話して最も強く感じるのは、「失敗」を恐れているということです。「コミュニケーションを、恋愛を、ふられることを、強く恐れている。それが今回のような調査においては、「セックスに関心がない・嫌悪している」という回答となつて表れたのではないかと考えています。

——高校の先生に伝えたいことは？

ぜひ高校生たちに、「失敗してもいいじゃないか！」というメッセージを伝えてほしいですね。受験勉強のような世界にとつぷり浸かっていると、失敗は絶対に避けたいという気分になりがちですが、失敗から得ることはたくさんあります。「経験にマイナスなし」ということを、先生から教えてあげてください。

## 北村邦夫氏

きたむら・くにお●1951年生まれ。自治医科大学医学部卒業後、群馬大学医学部産科婦人科学教室を経て、88年より社団法人（現／一般社団法人）日本家族計画協会クリニック所長。厚生科学審議会臨時委員など多数の公職に就いている。医学部在学中に学生結婚し、男3人女2人の父親。クリニックの診療や電話相談、講演会などを通じて10代の若者たちに接することで、彼らの心と体の悩みに精通している。『カラダの本』（講談社）、『ピル』（集英社新書）など著書多数。

